



ハヤブサ

ニュース No.57

絶滅危惧種
京丹後のハヤブサ

発行 米軍Xバンド レーダー基地反対・京都連絡会

連絡先 〒602-8347 京都市上京区四番町121-5 大湾 宗則

電話&FAX 075-467-4437

郵便振込口座 00950-9-303127 名義 京都連絡会

第7回総会報告

事務局長 山本 純



2月7日、米軍Xバンドレーダー基地反対・京都連絡会の第七回総会が、13時から京都府部落解放センター・ホールで開催された。総会には、40人を超える会員が参加した。

総会ではまず議長として上岡修さんを選出し、大湾宗則さんが主催者を代表して挨拶を行った。2020年の闘いの映像の上映に続いて、特別挨拶として「京丹後宇川の風」の代表の永井友昭さん、連帯労組関西生コン支部の西山直洋さんが発言を行った。

総会の第一議案は、活動日誌、活動報告、総括・方針から構成されたもので、大湾宗則さんから思いやり予算についての補足提起も行われ、採決の結果圧倒的多数で承認された。第二議案は、2020年度の会計報告で、第三議案は2021年度の予算案で、いずれも採決の結果圧倒的多数で承認された。第四議案は、役員改選であった。現在の共同代表5人と運営委員11人、新たに運営委員に立候補した南野真左衛門さんが立候補し、信任投票が行われた結果、南野さんが不信任となり、現在の5人の共同代表と11人の運営委員、会計監査1人が選出された。

近畿連絡会の旗開きがコロナ感染防止のため

に中止されたので、最後に近畿連絡会関連の発言が行われた。最初に、社民党の幹事長に就任することとの関係で代表世話人を退任し、顧問に就任される服部良一さんからの挨拶、新たに代表世話人に就任する中北龍太郎さんからの挨拶が行われた。続いて近畿連絡会各府県（大阪・兵庫・奈良・滋賀）の世話人からの連帯発言・メッセージの紹介が行われた。こうして京都連絡会の第七回総会は、成功裏に終了した。また、この総会は近畿連絡会の団結を強化していく機会ともなった。

近畿連絡会代表世話人就任のご挨拶

中北龍太郎

京丹後Xバンドレーダー基地が次第に軍事要塞化され、日米ミサイルシステムの軍事拠点となっています。しかも、Xバンドレーダー基地は、菅政権のすすめる敵基地攻撃能力保有政策により、大きく変質しようとしています。

敵基地攻撃能力の保有は、相手国への先制攻撃をめざすものです。また、安保法制＝戦争法の集団的自衛権行使と結びつくことで、日米共同して他国を攻める侵略的段階に突き進むこととなります。

しかも、軍事政策の基軸を専守防衛から先制攻撃に変質させることとなります。さらに、北東アジアの軍拡競争を激化させ、その行きつく先は日本を戦場と化すことに外なりません。

まさに、Xバンドレーダー基地は、敵基地攻撃戦略の要の一環になろうとしているのです。

Xバンドレーダー基地を撤去させましょう！軍事費ではなく、コロナ対策に税金を使わせましょう！菅政権を打倒しましょう！

こうした決意を表明して、近畿連絡会代表世話人就任のご挨拶とさせていただきます。

「街なかピラ」の報告とお知らせ

第111回 1月18日(月) 竹田久保町周辺 5人

◇「自衛隊は大事やね～」→災害救助隊にすればいいですね。今の自衛隊は戦争のための組織ですよと言うと「戦争は絶対にダメですよ。」(女性)

◇「さっき向こうで貰った」とポケットから取り出して見せながら「ごくろうさん」と。2～3人が。

第112回 1月26日(火) JR西大路駅周辺 7人

◇「基地ができる前に説明会があったのか？」→地元だけで説明会を開き、反対できない状況がつけられた。府民も知らない人が多いので基地の問題を考えてほしくてピラを配っていると話すと「私もコロナ問題で初めて基地のあることを知った」(女性)

第113回 2月12日(金) JR円町駅周辺 6人

◇スーパーに買い物に来る人は受け取り率が良いが、若い人や通行人の多くは拒否のゼスチャーで通り過ぎる。

◇「この間行ってきた。基地はえげつないな～」(男)

◇「税金の使い方が間違ってる！」(女)

第114回 2月18日の四条大宮は終了しました。



3月の日程

第115回 3月15日(月)
百万遍周辺です
百万遍交差点の北西に集合

第116回 3月23日(火) 下鴨高木町の周辺

集合場所：市バス「高木町」下車。
生協「下鴨店」の前です。

時間はいずれも 11:00～12:00 です。

ご都合の付く方は、集合場所にお集まりください。

連絡先：090 - 5672 - 1597 (白井)

2月例会案内

日時／2月25日(木) 6時30分～8時前
場所／ひとまち交流館

「ミサイル防衛
サードミサイル／レーダーの性能改良について
～韓国の反戦団体の分析から学ぶ～」

報告者／藤原(運営委員)

4参加費 無料



2020年5月29日 韓国・ソソン里で住民を排除して多くのサード機材が搬入された。写真は、機能強化されたXバンドレーダーの電子機材(EEU)と思われる車両。

韓国では、地元住民の反対の声を無視して、2017年4月にサードミサイルとレーダーが強行配備されました。配備後、何度も反対する住民たちを強制排除して、基地へ物資などの搬入が行われています。

2020年5月に、ミサイル関連では「ミサイル」「発射台」、レーダー関連では「電子機材」「発電機」などが搬入されています。

政府は古くなった機材を入れ替えただけと主張していますが、韓国の反戦団体は米国の資料を分析して「サードの性能改良が行われている」と主張しています。

韓国で行われているサードの性能改良は、日本に配備されたレーダーでも行われているのではないかと考えられます。

例会では、韓国の団体が指摘している内容と分析にもちいた米国の資料(英語)について紹介します(わかる内容がだいぶ限られているのが申し訳ないのですが…)。

ぜひご参加ください。(藤原)

補足

2月例会、プロジェクターを使って、資料紹介したいと思います。報告できるように努力中ですが…ネット環境があれば、ネットでホームページの紹介などを…藤原

3・9 京丹後市役所前 アピール行動のご案内

日程 3月9日(火)

集合 午前8時30分 五条大橋西詰
ガソリンスタンド前

* 配車の都合上、参加される方は事前に連絡をお願いします。

新型コロナウイルスは、京丹後市内でも猛威をふるい、とくに昨年末から1月にかけて、病院や介護施設でクラスターが発生しました。その時に比べると現在では状況が落ち着いてきましたが、しかし京丹後市の主要産業のひとつである観光業への打撃を含め、多くの人々の生活に影響を与えています。新型コロナの一刻も早い終息と感染された方々の回復を祈るばかりです。

さて、近く京丹後市の3月議会が始まります。米軍Xバンドレーダー基地をめぐることは、コロナ禍の中でも休むことなく二期工事が続けられ、基地の固定化と要塞化が進められようとしています。

新年早々、レーダーを動かす発電機の稼働により、近隣の人々にまたも騒音被害が及ぶということもありました。さらに、米軍関係者の交通事故の公表問題をはじめ米軍・防衛省の「約束違反」をただし、日米地位協定の抜本改定の実現に向けて行動していくことが求められています。

これらを踏まえ、京丹後市の3月議会に際して、京丹後市役所前でのアピール行動と議会への申し入れ書の提出を行います。また、基地ゲート前での抗議行動や地域へのビラ配布も行う予定です。

なお、この後の京丹後現地訪問3月30日(火)に予定しています。時節柄、無理のないかたちでのご参加をお待ちしています。

2～3月の企画

- ★ 2.26(金)14:30～(抽選の場合集合13:30)
琉球遺骨返還正教訴訟第8回弁論
京都地裁大法廷
- ★ 3.10(水)18:30～
講演 吉田美喜夫さん(立命館大学名誉教授)
キャンパスプラザ 4F 第二講義室 資料代400.-
- ★ 3.18(木)18:30～
京都タワー前 辺野古埋め立て反対スタンディング
【辺野古埋め立て反対京都実行委員会】

第7回「総会」を終えて 差別を許さず団結を求める!

大湾宗則

米軍Xバンドレーダー基地撤去や辺野古新基地建設阻止の闘いは困難を極めている。

その困難は、国策としての日米安保・日米地位協定、それを支える多国籍企業中心の金融独占資本や自民・公明・維新などの保守政党、マスコミに御用学者、そして大企業労働組合も含めた保守的な社会勢力の巨大な岩盤が困難な「壁」になっている。

相手が多国籍資本の金融独占資本中心ならこちらの中心は「搾取を断ち切る」労働者大衆でなければ対抗できない。その上で相手の巨大さが「壁」なら私たちは団結して圧倒的な数の力を示さなければならない。しかしこれまで差別をテコに分断、対立を余儀なくされ、労働者大衆の立ち上がりもままならず、支配階級を幾重にも包囲するほどの団結も作り出すことに成功していない。闘いが困難な理由です。

昨年一年を振り返って私たちは時代の予兆を聴きとる必要がある。

① コロナ禍のパンデミックは、「自然の征服」を掲げた傲慢な資本主義の破産であり、これ以上自然破壊するなど最後の警鐘を鳴らしている。コロナ禍パンデミックは、低所得者層に打撃を与え、政府の医療体制削減政策の結果、劣悪な環境の下で医療従事者を生産性原理で優勢思想に追い込み、トリアージュで弱者を選別せざるを得ない状態を作り出している。

医療従事者が人の命を差別なく救うことに喜びを感じれる環境づくりのため政府を替えなければならない。

② トランプの米国第一と白人至上主義は、Black lives matterを全米から世界に高揚させた。米大陸発見のコロンブス、南軍の差別的な将軍はもとより、あの米国建国の父といわれたジョージ・ワシントン、「奴隷解放」のアブラハム・リンカーンまで告発され、その銅像が撤去されている。イギリスでは奴隷商人の銅像が川に投げ込まれ、ベルギーでは当時の国王が旧コンゴ領を私領し、植民地として奴隷を酷使したと告発されその銅像も破損された。

③ 60年代の人種差別撤廃を引継ぎ、人種差別の原因である近代帝国主義の奴隷制度と植民地主義の告発・廃止を求める闘いに発展しつつあ

る。韓国では2016～17年にローソク革命、タイでは王政改革を掲げた民主化闘争、ミャンマーでは軍隊によるク・デターに反対し、民主政権を取り戻す闘いが行われている。

④ 世界では確実に過去の侵略と帝国主義を告発し、現在の差別と抑圧を許さない闘いが前進している。しかし日本では今も困難が続いている。差別と闘うという中身において。

世界の人民は侵略に抗した歴史体験がある。

アジア人民はかつて大航海時代にヨーロッパ諸国による侵略と植民地主義を被り、その後、大日本帝国の植民地支配を受け、それとの闘いの経験がある。南北アメリカ大陸やオセアニア、中東やアフリカ、中南米各国人民は、ヨーロッパ帝国主義諸国の侵略と植民地化と闘った経験を引き継いでいる。フランスやポーランド、スカンジナビアなど諸国人民もナチ・ドイツなどの侵略と植民地化の下で闘った経験がある。

日本人民は、侵略と闘った経験を持たない。

明治政府(帝国議会成立後は大日本帝国)は、国家の誕生と同時に帝国主義的な侵略と植民地主義を行い、とりわけ朝鮮や沖縄、台湾人民の主権を武力で奪って侵略・植民地化し、現地の人々に肉体的精神的虐待を行い、生活の隅々まで支配

日本人民は、主権を武力で奪われ、侵略され植民地化された経験を持ちえない。日本人民は一貫して天皇制を冠した大日本帝国の侵略と植民地主義に動員され、そのおこぼれにあずかり、社会意識としてあらゆる差別意識をぐい飲みし、「帝国臣民」としての歴史認識を再生産させられてきた。日本の朝鮮と沖縄、台湾などアジア諸国に対する武力による侵略と併合は、日本人民の朝鮮と沖縄、台湾などアジア人民に対する蔑視と差別排外主義を助長させ、日本政府に止まらず日本人民による沖縄差別、朝鮮差別の歴史認識の背景となっている。

第二次帝国主義戦争で大日本帝国は初めて敗戦を経験し、米国中心の連合軍の間接支配による占領下に入った。間接支配は大日本帝国の国家機関は解体されず、国家機構も官僚制度、警察・司法制度、更に教育、社会規範(道徳教育)などは戦前と変わらない体制がそのまま温存されてきた。また、ポツダム宣言の「民主化」政策は1946年11月3日の憲法発布までのわずか1年余りであった。

戦後直後、アジアにおいて中国革命、朝鮮革

命の高揚があり、これに対抗して米国は1948年に対日方針を転換、日本をアジアの「反共の砦」として再建を決意し、1950年に朝鮮革命の破壊を目的とした朝鮮戦争を仕掛け、日本に警察予備隊75,000人の再軍備を開始した。

日本政府は、「反共の砦」を「干天の慈雨」として歓喜して受け入れ、1951年に対日講和条約と日米軍事同盟(日米安保)を結び、日本独占資本の再建と再軍備・自衛隊の海外派兵・憲法改悪を日本の国是に押し上げた。日本人民は差別排外主義を克服する契機を失った。

日本人民が差別や排外主義を克服するために最低限必要なことは何か。

それは武力による侵略や併合、植民地化が人々にとってどういうものか、根掘り葉掘り生き証人の話を聞き、又は関係書物をむさぼり、資料館、図書館に足を運び写真集に目を透すなど、とにかく侵略や植民地化、武力による併合の下で人々はどんな生活を余儀なくされていたか、その書物や写真の登場人物に自らを置き換えて追体験する創造力を持つて差別され排外された人々の苦しみと恨の心に近づけなければ共に闘おうとする熱情も燃え上がらない。

日本の人民は、「徴用工、慰安婦」という話を聴いただけで彼らが青春時代、大日本帝国の官憲に騙されて異国に連行され、どのように尊厳を奪われ、貧しい食事で炭坑の坑道や切羽で酷使され、狭く汚い慰安所で一日30人、時には40人の軍人たちの相手を強要され、慰み者として酷使された彼ら彼女らの息づかい、時に祖国の家族をしのんで号泣する彼ら彼女ら、時にやむに已まれず反抗してきつい仕置きを強いられる、それを自分のこととして想いおこすことができるだろうか。

沖縄戦についても夏の炎天下、南部一帯に10万以上の人の死体が腐臭を放ち、黒く膨れ上がっている光景を「見たこと」があるだろうか。

米軍人による基地被害についても沖縄の人々にとっては毎日のことなのだが、私たちも沖縄を想うとき“四六時中、事件事故が起こる沖縄に住んでいるとしたら私はどうするだろうか”と反芻しながら取り組むべきだ。

最後に、日米安保・日米地位協定を改定・廃棄するには日本と沖縄人民の連帯が不可欠であり、そのためにも日本人民の沖縄差別を克服すること、それは何よりも沖縄差別の元締め、日本政府・菅内閣を打倒し、辺野古新基地建設を止めること。ご協力お願いいたします。